

建築費・家賃0円、壁面に温もりがあるコンテナ・ハウス （善行大越スポーツクラブ・神奈川県藤沢市）

1. コンテナの扉が在席の合図

善行大越スポーツクラブのクラブハウスは、船のコンテナを再利用したものです。広さは、幅2.4m×長さ6mで4畳位のスペースですが、クラブの活動拠点として十分に機能しています。電気、電話、FAX、エアコン、パソコン、印刷機、冷蔵庫などが完備され、家賃は0円、電気・電話代はクラブで負担しています。

クラブハウスに窓はありません。しかし、事務局員が在席している時はコンテナの大きな扉が開いているので密室にはならず、エアコンもあるので空気の循環に問題はありません。コンテナの扉が開いている時は、事務局員が詰めている合図にもなっています。



2. 給食センター跡地駐車場の一角に設置

クラブの設立後、自前のクラブハウスが欲しいと話していたところ、「船のコンテナが余っているから使ってもいいぞ」と仲間の中から声があがり、無償で譲り受けることになりました。コンテナの輸送費用約10万円はクラブが負担して移設・設置しました。

クラブハウスは、善行中学校に隣接した市の給食センター跡地駐車場の一角に設置されました。藤沢市の許可は必要でしたが、駐車場にコンテナを置くことは物置を設置する感覚なのか、市からの協力・理解は得やすかったようです。

クラブハウスが確保できないという声をよく聞きますが、はじめから立派なクラブハウスを要求しすぎているのかもしれませんが、会員が知恵を出し合い協力すれば、コンテナでも、クラブが誇りとする立派なクラブハウスへ変貌するものです。



3. 美術部生徒による壁画で地域にとけ込む

コンテナの壁面は、隣接する善行中学校の美術部の生徒たちがデザインを考え描いてくれました。ペンキによる描写で3ヶ月ほどの時間がかかりましたが、無味乾燥な鉄のコンテナでも地域の方の手が入ることにより、温もりのある素敵なクラブハウスになるものです。

手作りのクラブハウスは地域の中にとけ込み、クラブと地域の結びつきをしっかりと表現しています。ペンキを塗ってくれた子どもたちが、いつの日か指導者や会員としてクラブに戻ってきてくれることを、クラブ関係者は夢見ながら大事に使っています。



4. 自立したクラブづくりの第一歩

事務局機能を果たす拠点としては十分な広さを確保できていますが、会員が気軽に集い交流を促進できるだけの空間はほとんどないのが現状です。しかし、小さな空間でも、個人宅から独立したクラブ自前の拠点を持つことは、自立したクラブづくりの第一歩であると考えます。

総合型クラブをスタートさせてから、活動実績を着実に残してきていることが評価され、現在改修工事中の善行小学校の敷地内にクラブハウスが設置される予定になっています。現在のコンテナ型クラブハウスも、クラブの象徴として引き続き活用していきます。

(三橋正幸 神奈川県クラブ育成アドバイザー)

【善行大越スポーツクラブ プロフィール】

1. 設立

設立年:平成18年2月

経緯:藤沢市の善行・大越地区社会体育振興協議会を母体として設立

2. 地域

人口:藤沢市善行地区 人口42,000人、18,000世帯(平成22年7月現在)

特性:昭和40年代(1965~1974年)に公団住宅の開発が進み急激な人口増加があった地域

3. クラブ(平成22年7月現在)

会員数:600名

予算規模:約1,000万円

4. 連絡先

〒252-0815 神奈川県藤沢市石川3994-1

TEL・FAX 0466-81-6754 Email:taniyama@shonanfujisawa.com

URL:<http://www.cityfujisawa.ne.jp/~zosc/>